

# 学習者が Writing の授業でパラグラフを構成するスキルと文法力とを自律的に高めるための教材開発に関する研究 2

東郷 多津<sup>A</sup>, 田中 美和子<sup>A</sup>

## 1. はじめに

現代社会は多様性が特質である。高等教育機関で教える英語教師も、その専門分野にかかわらず、多様性に対応することを迫られている。たとえば、学生の専攻分野や英語力もさまざまであり、クラスサイズにも多様性が見られる。特に共通教育の授業では、従来の画一的な授業ではこれらの多様性には対処できない。このような多様性に対応するためには、より広い視野や深い知見に基づいて、学習者主体の新しい授業を開発する必要がある。そこで、類似する課題を共有する研究者同士が、共通開発イメージを基にプロジェクトに取り組んでいる。

初年次学生はとりわけ教師依存傾向が強く、早い段階で自律的な学習態度を身につけることが、大学生活を送るうえで求められる。そこで、自力で、あるいは他の学生と議論しながらトピックを見つけ、それに必要な語彙や文法を特定して練習しながら、意図した内容を相手に正確に伝えられるようになることを目指す。そのため、共同研究者らは比喩的イメージを共有しながら必要な手法や教材を用意している。学生のブレン・ストーミングから評価までを開発範囲対象としている。(Singer et. al, 2010)

## 2. 発表の目的

本発表では、今学期あらたに盛り込んだ授業のねらいを達成するための教材を紹介し、その仕組みの効果について検証する。

## 3. 本年度の授業

### 3.1 対象

対象者：A 女子大学心理系学部 59 名（内訳：1 回生 51 名，2 回生 5 名，3 回生 2 名，4 回生 1 名）習熟度別下位 2 クラス

授業者：田中美和子，東郷多津

科目：英語 Writing I（共通教育必修科目）

テキスト：*Get Ready To Write* 2<sup>nd</sup> edition (PEARSON/Longman)

教室形態：普通教室

### 3.2 授業の特色

この授業では、学生が自分で「自律的に学びながら英語で自分の意見を発信できるようになること」をめざしている。したがって、図1「学習のイメージ」にあるように、教師と学生が、教える側・学ぶ側として対立する古典的な講義式の授業形態をとらず、まずは教師対学生集団（チーム学習）という形から出発して、教師が学生集団の中に入り込み、自律学習の手助けをするという新しい自由な枠組みの授業形態をとることにより、学生の自律学習を促していく。

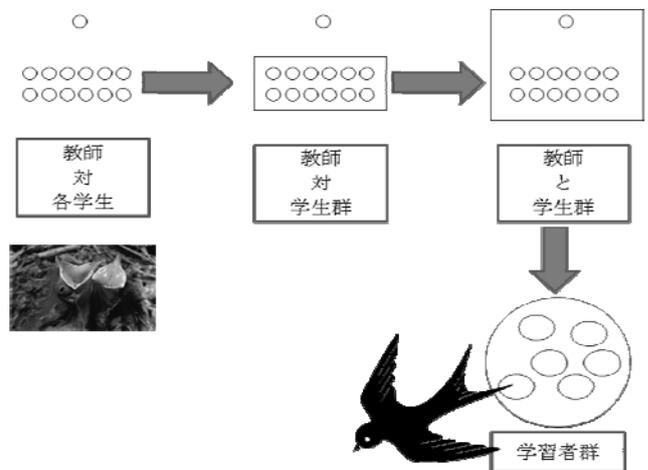


図1 学習のイメージ

今回は共通開発イメージを「巣立ち」とし、下記のような授業概要の中に、学生の自律を促す仕組みを盛り込んだ。

### 3.3 授業の概要

学習内容と予定を確認する (4/14)	オリエンテーションを聞いて、今後の授業の仕組みについて理解を深めましょう。また、同じクラスを受講するメンバーについてできるだけたくさんの情報を得てください
------------------------	---

A: 京都ノートルダム女子大学言語学習センター

	い。
<b>学び方を練習する</b> <b>1 [みんなで学ぶ]</b> (4/21, 28, 5/12)	3 回の授業がセットになっています。1. 「旅人café」という教師が提供するブレーン・ストーミング (考えを広げる方法) に従って、決められた主題 (トピック) について <b>チーム</b> でたくさんアイデアを出す。2. 教師が提供する学習ガイド(G)を参考にしながら、チームで教科書の問題 (Ch.1`2) を解き、査定シート(AS)を見ながら答え合わせを行って、自分の文法能力を把握する。3. 2で得た書くための技術を使って、1で決めた主題についてパラグラフを書く。
<b>学び方を練習する</b> <b>2 [ひとりで学ぶ]</b> (5/19, 26, 6/2)	3 回の授業がセットになっています。1. 「マインドマップ」という教師が提供するブレーン・ストーミングで、決められた主題について <b>個人</b> でたくさんアイデアを出す。2. 教師が提供する学習ガイド(G)を参考にしながら、ひとりで教科書の問題(Ch.3`4)を解き、査定シート(AS)を見ながら答え合わせを行って、自分の文法能力を把握する。3. 2で得た書くための技術を使って、1で決めた主題についてパラグラフを書く。
<b>英語のパラグラフを評価するための基準をみんなで決める</b> <b>[みんなで基準を作る]</b> (6/9, 16, 23)	3 回の授業がセットになっています。1. それぞれチームごとに活動する。与えられたパラグラフを読みあい、チームごとにパラグラフを評価するための基準 (R) を作成する。2. 前半はチームごとに作成した基準を持ち寄って、クラスの基準(クラス基準表)を決定する。後半は決定した基準クを使って、それぞれが自分の書いたパラグラフを書き直して査定する。その後、クラスの中間のパラグラフを読んで評価シートにクラス基準表による査定とパラグラフを読んだコメントを記入する。
<b>自分で組み立てた学び方で学ぶ</b> <b>[自律的に学ぶ]</b> (6/30, 7/7, 14)	自由な主題で自由にパラグラフを書きます。自分で組み立てた学ぶ方を計画表に書きましょう。以下に3回の授業の例を示します 1. (例：ブレーン・ストーミング) 2. (例：ブレライティング)

	3. (例：ライティング) 自分の目標とする完成度基準に合わせて、期限までにパラグラフを完成させて提出します。書いたらクラス基準表を使って自分のパラグラフを査定してみましょう。自己評価ができればクラスメイトのパラグラフも読み、コメントを書きましょう。
<b>まとめの作文を仕上げ</b> (7/21, 28)	2 回の授業で最終課題ライティングを仕上げましょう。これまでに学習したブレーン・ストーミングの手法や書くための技術をできるだけ多く利用してください。最後に自分の書いたパラグラフをクラス基準表を使って査定し、さらに成績を自分で計算します。

## 5. 結果と考察

現在開発中の授業は4年目の試みとなるが、2007～2009年の完全学生主導型の授業とは異なり、教師主導型の授業から学生主導の授業への移行を授業の中に組み入れた。

このことにより、これまでの開発授業とはさまざまな違いが生まれている。これらの違いと、最終ライティングの成果がどのような関連を持つのか、自律学習へと導くためにはどのような教育技術が必要となるのかは、これからの分析とさらなる実践が必要となる。

## 参考文献

- 1) Jane SINGER, Tazu TOGO, Shiho MOCHIZUKI, Miwako TANAKA : Applying an Autonomous Learning Approach to an English Academic Writing Course, 立命館大学言語教育研究, 2010, 26 巻 3 号, pp.209-219.
- 2) 香取一昭, 大川恒: ワールド・カフェをやる, 日本経済新聞出版社, 2009.
- 3) トニー・プザン(神田昌典 訳): ザ・マインドマップ, ダイヤモンド社, 2005.
- 4) 西之園晴夫編: 教育の方法と技術, ミネルヴァ書房, 2004.
- 5) 西岡加名恵: 「逆向き設計」で確かな学力を保障する, 明治図書, 2008.